

うるま市勝連「勝連漁業協同組合」生産部門

モズクで生き生きふるさとづくり (平成19年度認定)



勝連半島の南半分と浜比嘉島、津堅島からなる勝連地域は、漁業が盛んな地域であり、モズク生産量については、県全体約41%の水揚げを誇る県内一のモズクの産地である。勝連海域では古来より天然のモズクが自生しており、赤土や生活排水の流入がほとんどないため、良好なモズク養殖が可能となっている。

津堅、浜、比嘉、平敷屋の4支部で構成される勝連漁協では、県で開発された中間育成技術や種苗生産技術を導入したことで、種苗生産の周年化と高品質なモズクの生産・育成が可能となった。平成17年度には「モズク種苗施設」を導入し、平成18年度の生産量は8,545トンとなっている。

現在は生モズクと塩蔵モズクの販売が主であるが、ぜんざい、雑炊、スープ、ドレッシングなど加工品の開発にも積極的に取り組んでいる。

4月の第3日曜日のモズクの日には「モズク祭り」を開催し、モズクのつかみ取り体験や漁場見学、モズク料理コンテストを実施することで、モズクの更なる普及拡大を図っている。

